

# 第6学年 体育科学習指導案

2組 計33人（男子17人，女子16人）

指導者 池水大介

## 1 単元 大きく美しく！台上前転（跳び箱運動）

### 2 単元の目標

「発見したコツを生かして、大きな台上前転ができるようになりたい」「自分の課題に合った場を選んで練習し、首はね跳びなどの発展技に挑戦したい」といった願いをもち、友達と教え合い励まし合いながら練習に進んで取り組む中で、動きを高め、自分の能力に合った技を身に付ける楽しさや喜びに触れることができる。また、台上前転のコツを発見し、自分の課題を解決するための練習の場を選んだり、同じ発展技を選んだグループで練習の仕方を工夫したりすることができる。

### 3 単元の評価規準

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
場や器械・器具の安全に気を配り、友達と教え合い励まし合いながら、進んで練習に取り組もうとしている。	課題の解決の仕方を知るとともに、自分の課題に合った練習の場や方法を選んでいる。	膝を伸ばした腰角度の大きな台上前転ができる。

### 4 単元について

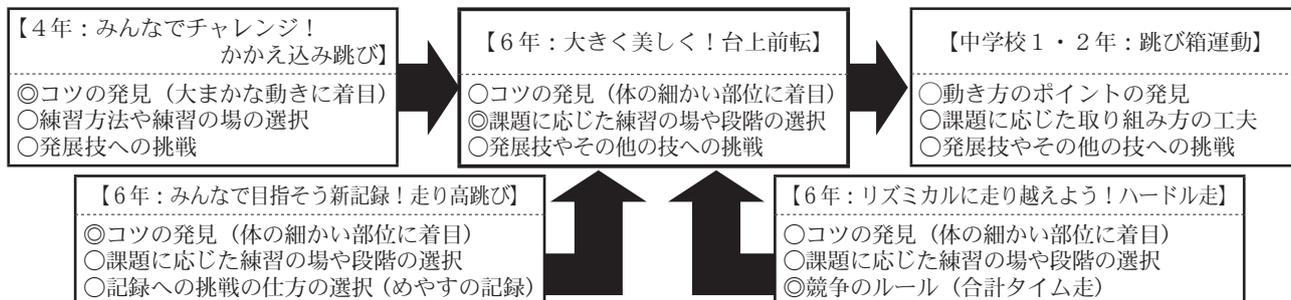
#### (1) 単元の位置とねらい

子どもたちは「4年：みんなでチャレンジ！かかえ込み跳び」の学習を通して、友達の動きや掲示資料などからかかえ込み跳びのコツを発見し、自分の動きを高めてきている。また、いろいろな高さや向き、大きさの跳び箱に挑戦する楽しさも味わってきている。そして、「練習の場や方法を工夫して、もっと大きく跳び越すことができるようになりたい」「もっと大きな動きの新しい技に挑戦したい」などの欲求をもっている。

そこで本単元では、一人一人が安定した台上前転を身に付けることができるように、コツを発見したり自分の課題を把握したりすることができるようにする。また、自分の課題に合った場で友達と教え合いながら練習に取り組むことで、発見したコツを生かして大きな台上前転へと動きを高めていく。さらに、高まった動きを生かして首はね跳びや頭はね跳びといった更なる発展技へ挑戦していくことを通して、跳び箱運動のもつ楽しさを味わっていくものである。

この学習は、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うためのポイントを発見し、課題に応じた練習方法を選び、更に大きく美しい技へ挑戦する楽しさを味わう「中学校1・2年：跳び箱運動」の学習へと生かされていく。

#### (2) 単元における系統（◎は学習内容の重点）



#### (3) 運動の特性について

「跳び箱運動」は、基本的な支持跳び越し技を中心に取り組んだり、その発展技を達成したりしたときに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、高さや向きといったより困難な条件の下でできるようになったり、より大きく美しい動きができるようになったりしたときに喜びや楽しさを味わうことができる運動でもある。

第6学年にとっての「大きな台上前転」は、踏み切りの感覚や回転感覚を身に付けてきた子どもたちにとって取り組みやすい運動であり、膝を伸ばして大きく美しく回転する動きができたときに、成就感や達成感を味わうことのできる運動である。助走、踏み切り、着手、着地といったそれぞれの局面におけるコツを発見したり、動きを高めるための練習の場や方法を工夫したりする楽しさも味わうことができる。さらに、高まった動きを生かして発展技に挑戦する楽しさを味わうことができる運動でもある。

(4) 子どもの実態 (調査日 平成24年9月14日, 調査人数 33人)

項目	回答								
1 飛び箱運動への興味・関心	・好き (11) ・どちらかといえば好き (4) ・どちらかといえば嫌い (7) ・嫌い (11)								
◇ 理由	○跳べたとき気持ちがいい (7) ○いろいろな技に挑戦することが楽しい (4) ○得意 (2) ○自分に合った高さで挑戦できる (2) ●怖い・痛い (13) ●うまく跳べない (5)								
2 単元のめあて	・きれいに跳べるようになる (12) ・高い飛び箱へ挑戦する (11) ・いろいろな技に挑戦する (6) ・自分に合った場で挑戦する (4)								
3 学習の進め方 (複数回答)	・友達と教え合う (17) ・友達やグループで競争する (8) ・コツを発見する (8) ・練習の場を工夫する (4) ・上手な友達の動きを観察する (3) ・映像遅延装置を使う (2)								
4 できるようになるためのコツ (複数回答)	台上前転	・膝、へそを見る (8) ・体を丸める (8) ・強く踏み切る (6) ・飛び箱の手前に手を着く (3) ・肘を曲げる (2) ・頭を入れる (2) ・腕に力を入れる (1) ・分からない (3)							
	首はね跳び	・腕を伸ばして突き放す (11) ・勢いよく踏み切る (6) ・背中を反る (4) ・足を伸ばす (1) ・手の位置をそろえる (1) ・分からない (10)							
5 技能の実態	重ねたマットへの前転	◎	11	○	10	△	8	●	4
	連結飛び箱での前転	◎	7	○	14	△	9	●	3

「飛び箱運動」への興味・関心については、「跳べたとき気持ちがいい」「いろいろな技に挑戦することが楽しい」などの理由から、好きだと答えている子どもが約半数である。しかし、「怖い・痛い」などの理由で、嫌いと答えている子どもも多い。単元のめあてについては、「きれいに跳べるようになりたい」「より高い飛び箱へ挑戦したい」といった願いをもっていることが分かる。また、友達とかかわり合いながら、コツを発見したり場を工夫したりして学習を進めていきたいと考えていることが分かる。「台上前転」や「首はね跳び」のコツについては、強い踏み切りや視線、腕の突き放しなどを挙げている反面、分からないと答えている子どももいる。台上前転につながる下位運動の技能については、踏み切りが弱いため腰を高く上げることができなかつたり、前転の途中で体が伸びてしまったりする子どもがいるなど、個人差が大きいことが分かる。

5 指導に当たって (研究との関連)

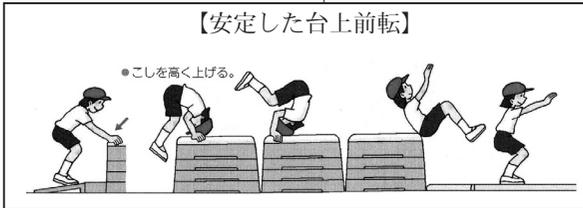
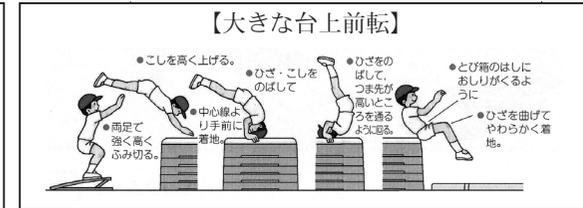
【「思考活動」を促す学習指導】

- 「飛び箱のどこに手を着いているかな」「膝やつま先はどうなっているかな」など動きを見る視点を明確にした発問や言葉掛けを行うことで、大きな台上前転のコツを発見できるようにする。
- 映像遅延装置などのICT機器を活用することで、自分の動きと友達の動き、掲示資料とを比べて、自分の課題を把握したり伸びを確かめたりできるようにする。また、示範となる子どもの動きからコツを確かめ、みんなのコツとしてまとめることができるようにする。
- 「膝が伸びているか確かめてね。」「腕を伸ばして突き放すタイミングを合図してね。」など、自分が見てほしいポイントを友達に伝えることで、それぞれの課題に合ったアドバイスを的確に行うことができるようにする。
- 課題を解決するための練習の場や練習のポイントを黒板に掲示しておくことで、子どもたちが自分の課題に合った場を選ぶことができるようにする。

【子どもの考えを高める評価】

- 動きが段階的に示された「コツ発見ボード」に、自分が発見したコツを付箋紙に書いて貼ることで、どの子どもがどんなコツを発見したか見取ることができるようにする。
- 子どもたちが把握している自分の課題や次時のめあてについて、ワークシートの振り返りを基に実態把握表に整理することで、子ども一人一人の願いや課題、動きの高まりを把握し、授業の中で個に応じた指導や場づくりに生かすことができるようにする。

6 指導計画（全8時間）

時間	1	2	3	4	5（本時）	6	7	8
過程	つかむ	挑戦するⅠ		挑戦するⅡ		挑戦するⅢ		たしかめる
活動の流れ	<p>自分のできる技や新しい技に挑戦して、単元のめあてをたてよう。</p> <p>1 めあての確認 2 学習の約束 学習の進め方の確認 3 準備運動 4 のびのびタイム 5 チャレンジⅠ [できる技に挑戦する] 6 話合い [大きな台上前転の動きを見る] 7 チャレンジⅡ [大きな台上前転に挑戦する] 8 振り返り 9 単元のめあて</p>	<p>自分の課題に合った場でコツを生かして動きを高め、大きく美しい台上前転に挑戦しよう。</p> <p>動きを高めるコツを発見して、台上前転に挑戦しよう。</p> <p>1 めあての確認 2 準備運動 3 のびのびタイム</p>		<p>自分の課題に合った場で、大きな台上前転に挑戦しよう。</p> <p>1 めあての確認 2 準備運動 3 のびのびタイム</p>		<p>これまでの学習を生かして、自分の力に合った技に挑戦しよう。</p> <p>1 めあての確認 2 準備運動 3 のびのびタイム</p>		<p>跳び箱競技会を開いて、自分や友達の動きの高まりを確かめよう。</p> <p>1 めあての確認 2 準備運動 3 のびのびタイム</p>
	<p>【のびのびタイム：主運動につながる下位運動を経験する時間】</p> <p>○馬跳び ○手足走り ○手押し車 ○大股歩き前転 ○かえるの足打ち ○三点倒立 ○アンテナブリッジ など</p>	<p>4 チャレンジⅠ [台上前転のコツを発見する] 5 話合い [発見したコツについて話し合う] 6 チャレンジⅡ [課題に合った場で台上前転や大きな台上前転に挑戦する] 7 整理運動 8 振り返り</p>		<p>4 チャレンジⅠ [大きな台上前転のコツを発見する] 5 話合い [発見したコツについて話し合う] 6 チャレンジⅡ [課題に合った場で大きな台上前転や発展技に挑戦する] 7 整理運動 8 振り返り</p>		<p>4 チャレンジⅠ [自分が選んだ技のコツを発見する] 5 話合い [自分や友達の高まりを確かめる] 6 チャレンジⅡ [課題に合った場で自分の力に合った技に挑戦する] 7 整理運動 8 振り返り</p>		<p>4 跳び箱競技会 [大きな台上前転やいろいろな技に挑戦する] 5 話合い [自分や友達の高まりを確かめる] 6 整理運動 7 単元全体の振り返り</p>
	<p>【安定した台上前転】</p> 		<p>【大きな台上前転】</p> 		<p>【課題に合った練習の場】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○重ねたマットへの前転</li> <li>○連結跳び箱上での前転</li> <li>○ゴム紐を張った場</li> <li>○跳び箱横向きの場合</li> <li>○ステージからの回り（はね）下りの場</li> <li>○連結跳び箱からの首はね下りの場 など</li> </ul>			
意識の流れ	<p>コツを発見したり友達と教え合ったりして、大きな台上前転ができるようになるぞ。</p>	<p>自分の動きと友達の動きを比べたり、掲示資料を活用したりして、台上前転のコツを見付けよう。</p>		<p>大きな台上前転のコツを見付けて、自分の課題に合った場で練習するぞ。</p>		<p>同じ課題をもった友達と教え合いながら、自分の力に合った技に挑戦するぞ。</p>		<p>新しい技ができるようになったぞ。友達も上手になっていたな。</p>
評価項目	<p>○ 試しの跳び箱運動に進んで取り組み、「大きな台上前転ができるようになりたい」といった願いをもっている。（態）</p>	<p>○ 安定した台上前転のコツを発見している。（思・判）</p> <p>○ コツを生かして動きを高めるための練習の場を選んでいる。（思・判）</p>		<p>○ 大きな台上前転のコツを発見している。（思・判）</p> <p>○ 自分の課題を把握し、その課題に合った場で練習している。（思・判）</p>		<p>○ 友達の課題に合った言葉掛けやアドバイスを的確に行っている。（思・判）</p> <p>○ 両足踏み切りから、腕でしっかり体を支え、膝を伸ばして大きく回っている。（技）</p>		<p>○ 学習したことを生かして、大きな台上前転やその他の技に進んで取り組んでいる。（態）</p>
評価方法	○ワークシート ○観察 ○発言	○ワークシート○観察○発言○ICT機器		○ワークシート○観察○発言○ICT機器		○ワークシート○観察○発言○ICT機器		○ワークシート○観察○発言

7 本 時 (5 / 8)

(1) 目 標 コツを生かして動きを高めるために、自分の課題を把握し、課題に合った場を選んで練習に取り組むことができる。

○「思考場面」：自分の課題に合った練習の場を選ぶ場面 「思考活動」：関係付ける 「材料」：自分の動き・自分の課題 「視点」：体の細かい部位

(2) 展 開  は教師の言葉掛け  は予想される子どもの反応  は重点評価項目 ☆はICT活用の留意点

過程(分)	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導・評価
つかむ (13)	<p>今日はどんな学習をしますか。</p> <p>のびのびタイムで、運動に必要な感覚を身に付けよう。</p> <p>自分の課題に合った場で大きな台上前転に挑戦しよう。</p>	<p>○ のびのびタイムでは、「かえるの足打ち」や「アンテナブリッジ」などを行うことで、主運動に必要な感覚を身に付けることができるようにする。</p> <p>☆ 映像遅延装置を活用することで、自分の動きと掲示資料を比べ、課題を把握できるようにする。(比較する)</p>
挑 戦 す る (27)	<p>本時のめあてについて話し合う。 自分の課題に合った場で、大きな台上前転や発展技に挑戦しよう。</p> <p>準備運動、のびのびタイムをする。</p> <p>チャレンジⅠ 発見したコツを生かして大きな台上前転に挑戦する。</p> <p>話 合 い コツを生かして高まった動きを確かめる。</p> <p>チャレンジⅡ 大きな台上前転や発展技に挑戦する。</p> <p>自分の力に合った技に挑戦しよう。</p> <p>見てほしいポイントをしっかり伝えよう。</p> <p>今日の学習はどうだったかな。</p> <p>動きが高まったのはどうしてかな。</p> <p>次はどんな学習がしたいですか。</p>	<p>前の時間に発見したコツを生かして、大きな台上前転に挑戦します。</p> <p>大きな台上前転に必要な感覚を身に付けるぞ。</p> <p>腰が高く上がっていないから、ゴム紐を張った場で腰を上げる練習をするぞ。</p> <p>腰が高く上がっていたよ。膝も伸ばして回ることができたね。</p> <p>「腰を上げる」という課題に合った場で練習したからです。</p> <p>ステージからの首はね跳びに挑戦するぞ。</p> <p>腕を突き放すタイミングを合図してね。</p> <p>ステージからの首はね跳びができるようになりました。</p> <p>課題に合った場で友達とアドバイスし合いながら練習したからです。</p> <p>5段の跳び箱で首はね跳びができるようになります。</p>
た し か め る (5)	<p>整理運動をする。</p> <p>本時の学習を振り返り、振り返りカードに記入する。</p> <p>本時の学習を振り返り、次時の学習に見通しや意欲をもつ。</p>	<p>○ ゴム紐を張った場や連結跳び箱の場、ステージからはね下りる場など、課題を解決するための練習の場を設定したり、その場に合った練習のポイントを掲示したりすることで、どの子どもも自分の課題に合った場で課題解決に取り組むことができるようにする。(関係付ける)</p> <p>自分の課題を把握し、その課題に合った場や方法を、根拠を明確にして選んでいる。 【思考・判断：発言・観察】</p> <p>○ 自分が見てほしい部位やポイントを友達に伝えることで、課題に合ったアドバイスや補助を的確に行うことができるようにする。(一般化する)</p> <p>○ 友達の動きを見る際に、「膝や肘はどうなっているかな」など、見る視点を明確にした発問や言葉掛けを行うことで、これまで発見してきたコツと友達の動きを比べ、課題を把握できるようにする。(比較する)</p> <p>○ 練習の段階が示されたステップアップ表を活用することで、自分の力に合った場を選ぶことができるようにする。</p> <p>○ 動きが高まった子どもを紹介することで、教え合うことや、課題に合った場で練習することのよさを実感できるようにする。</p>

運動学習

認知学習

学習指導

第6学年「跳び箱運動」における評価資料（5／8）

重点評価項目

コツを生かして動きを高めるために、自分の課題を把握し、課題に合った場を選んで練習に取り組んでいる。

評価の観点

ア 発見したコツを視点にして、自分や友達の動きと掲示資料及び映像を比べて、自分の課題を把握している。 【比較する】【関係付ける】

イ 自分の課題に合った練習の場や方法を、根拠を明確にして選んでいる。 【関係付ける】

ウ 友達の課題に合った言葉掛けやアドバイスを的確に行っている。 【一般化する】

評価方法 観察・ワークシートの記述・発言を基に評価する。

十分満足できる（A）

おおむね満足できる（B）

ア・イ・ウを満たす表現

ア・イを満たす表現

表現（記述）例

A児	ア 掲示資料と比べてみると、膝が曲がっているな。もっと膝を伸ばしてみよう。	ア 掲示資料と比べてみると、膝が曲がっているな。もっと膝を伸ばしてみよう。
	イ 膝を伸ばして回転するために、ゴム紐を張った場で、腰を高く上げる練習をしよう。	イ 膝を伸ばして回転するために、ゴム紐を張った場で、腰を高く上げる練習をしよう。

	ウ 遠くで踏み切っているから、腰が高く上がっていないよ。もっと近くから高く踏み切るといいよ。	
--	--	--

評価を生かした指導

〈Bの学習状況の子どもに対して〉  
○ これまで発見したコツと友達の体の部位を比べて、友達の課題に合ったアドバイスができるような言葉掛けを行う。

○ 友達がよりイメージしやすい言葉で表現することができるように、「つま先をピンと伸ばす」といった擬態語や擬声語を入れるように言葉掛けを行う。

〈Cの学習状況の子どもに対して〉  
○ スロー映像を視聴する場を設定し、自分の動きを見て課題を把握できるようにする。

○ 課題を解決するための練習の場や練習のポイントが書かれた掲示資料の活用を促す。

C児